

第6期 新宿区多文化共生まちづくり会議 第5~7回会議のご意見のまとめ

多文化共生実態調査の質問に合わせて分類しています

◆暮らし

◆困っていること

【第5回 7月26日】

1 日本にきたばかりの外国人は、家が借りられないのと、クレジットカードが発行できなくて困っている。

【第6回 10月20日】

2 外国人は高齢化しており、その配偶者の日本人も高齢化している。例えば、妻は日本語が分からなくて申請手続きができず、その夫は高齢でインターネットが使えなくて電子申請ができない。仕方なく、申請書類を郵便で送る事例がある。

◆トラブル（生活ルール、マナー）

【第5回 7月26日】

- 3 普段の交流がないから、外国人も日本人もトラブルがないという調査結果になっている。
- 4 同国人でのトラブルはよく聞く。これは、よく付き合うからである。
- 5 お互いが文化を超えて、この地域の住民であることを認識していかなければ、大きなトラブルになりやすいと危惧している。
- 6 日本語の勉強に来た場合は、日本の文化も勉強する。しかし、単純労働で来た外国人は、日本語や日本文化を勉強する機会は少なく、トラブルも発生する。
- 7 町内会とかに出ると、騒音やごみの出しのトラブルを聞く。
- 8 東京に住んでいると距離を保てるので、トラブルもなく関係なく過ごせる。日本人も外国人も関係がない。
- 9 先入観を持ちたくないが、コロナで外国人が減って、アパートのゴミ箱が改善した例もある。
- 10 日本で暮らしていこうと考えたら、外国人の方に日本での暮らし方を理解してもらえない、ルールに従っていただくしかないと思う。

【第6回 10月20日】

11 留学生を抱えている学校では、日本のルールやマナーを教えるのに苦労している。学校だけでなく、区や地域が手助けする仕組みをぜひ考えるとよいと感じた。

【第7回 12月22日】

12 ミャンマーは言葉も文化も全く違う民族と一緒に住んでいる国である。イベントを一緒にやっており、いいところと悪いところを学んで、お互い仲よくしている。同様に外国人と日本人が一

緒にイベントをやると、日本のルールや習慣を学ぶ機会になる。交流の場を設けるとよい。

- 13 活動団体に予算をつけて、日本語や生活ルールを教えてもらおうとよい。
- 14 生活ルールやマナーはチラシを見るだけでは覚えづらい。外国人と日本人の交流ができれば、会話の中で知ることができて記憶に残ると思う。例えば、留学生と日本人のマッチングをして、互いの言語で会話をしながら、お互いの文化、マナーを学んでいく機会を提供していくとよい。
- 15 区役所で住民登録するときに、車の運転免許のように資料を読ませて、生活ルールの問題事例に答えてもらう。そこから区民として認めるという方法もよいと思う。

◆偏見・差別

【第5回 7月26日】

- 16 偏見や差別をどのような場面で感じているのか分かれると、多文化共生意識の醸成のためにと何をしていけばいいのかが見えてくる気がする。

【第6回 10月20日】

- 17 部屋を探すときに外国人差別を感じる。マンションやアパートを持っているのは年齢が高い方々で、考えを変えるのには時間がかかる。
- 18 外国人が家を借りるときの差別は、外国人のマナーが悪いから貸してくれないということ。差別をなくすためには、悪いマナーを無くして、外国人が自分たちの評価を自分たちで高くするしかない。
- 19 全国の技能実習生が増えた地域では偏見が増えているという話も聞く。しかし、新宿区は、留学、永住者、技術での入国が多く、技能実習は少ないことから、非常に安定している関係にある。

【第7回 12月22日】

- 20 外国人が差別されないようにするということは、自分たちで評価を上げるということ。

◆その他

【第6回 10月20日】

- 21 外国人の調査回答で、「つき合い」では「挨拶程度」が多く、「困りごと」では「友人が少ない」が多い。地域で何らかのつながりが欲しいと思っている外国人が一般的な姿と思う。
- 22 日本人の調査回答では、「トラブル経験」で「特にない」が多く、外国人に慣れているんだと感じた。慣れているからこそ、外国人に対する偏見に遭遇している。このため、外国人に対する偏見があると感じる人が増えたという調査結果になったと解釈できる。

【第7回 12月22日】

- 23 大久保地域は外国人が身近にいる。以前は外国の文化を嫌う人もいたが、ここ数年は変わってきている。

◆ことば(日本語学習)

【第5回 7月26日】

24 特定技能の外国人が増えると思う。日本語のカリキュラムも、学歴や経歴に合わせないといけないと思う。

【第6回 10月20日】

25 外国人の調査回答「日本語で困った時どう対応していますか」では、「通訳・翻訳アプリの活用」が多い。これからは外国人と日本人とのコミュニケーションのうえでITを使ったものが飛躍的に伸びてくると、もっと大きな交流の可能性が広がるだろうなという感じがする。

【第7回 12月22日】

26 日本に住んでいる外国人でも、日本語を使わなくて生活できてしまい、日本語ができない人がいる。そういう人にも日本語を教えるべき。

27 日本語と一緒に日本文化も学ぶとよい。

28 日本語教室は、高齢者、子育て世代、仕事で忙しい人など、身近に気軽にできるのがよい。

29 日本語レベルN2の外国人でも、日本語をしゃべりたくても会話の機会が無い。イベントや清掃活動など気軽に参加できれば、日本語をしゃべる機会になる。

◆災害時・緊急時の対応

【第6回 10月20日】

30 外国人には、災害時に何をすればよいか分からない人が多い。大久保の高齢者ネットワーク会議で、警察や消防署の方が防災マップや災害時の対処法を紹介する機会があつてよかった。

31 国籍関係なく、若者をいかに活かして、力を発揮していただいて、例えば、災害時に近所のお年寄りを助けていただくということが大切と思っている。

【第7回 12月22日】

32 防災マップなど、どんどん多言語で広げてほしい。

◆必要な情報・サービス

【第5回 7月26日】

- 33 交流したくても、外国人が情報を知らないということがある。
- 34 時代背景や社会情勢の変化も考えつつ、発信の方法も含めて考えていく必要があると感じる。

【第6回 10月20日】

- 35 自分たちでイベントを実施するときに、会場となる場所や公園を借りたいが、どこが窓口なのか相談したい。
- 36 外国人が盆踊りや日本の料理を体験したくても、情報が入ってこない。たどりつけない。
- 37 保育園や小学校に通う子供がいれば、様々なチラシが配られて情報は入りやすい。
- 38 たくさんイベントをやっても情報が届きにくい。新宿区のホームページに掲載されていても現状は難しい。
- 39 外国人の若者は、日本の文化やお祭りに参加しているのを、T i k T o kやフェイスブックに載せて発信したい。新宿区のイベントをT i k T o kやフェイスブックに載せて発信するとよい。
- 40 外国人と日本人の関係だけでなく、世代とか関係してくると、全てにアプローチするのは難しいと思う。例えば、盆踊りの貼り紙があっても、いくら区のホームページに載っていても、イベントを探して見なければ情報は伝わらない。外国人だからでもないと思う。インターネットを見る人もいれば、一切見ない人もいる中で、どのように幅広く情報を届けるのか、考えることがいっぱいあると思う。
- 41 外国人の調査回答「必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと」では、SNSやメール、ホームページが平成27年度の調査と比べて増えている。また、「日本語の勉強方法」でもインターネットの利用は倍増している。インターネットが大事であると強く感じた。
- 42 一方、外国人の調査回答「外国人向けの情報で知っているもの」では、SNSや、インターネット動画のスタートガイドの回答が低い。認知度が課題である。

【第7回 12月22日】

- 43 地域センターなどでお祭りをやっているが、交流を深めるためには「多言語のチラシ」が大事である。
- 44 イベントの発信は、日本語学校に向けたSNSやチラシ配りに力を入れると交流が深まると思う。
- 45 地域イベントの情報をLINEなどでお知らせするときに、イベントの事前告知だけでなく、イベントが終わった後に写真やコメントなどを知らせれば「次回は参加したい」と思ってもらえる。
- 46 情報提供は、チラシの配布よりも、QRコードを活用したスマートフォンでの提供がよい。
- 47 外国人に情報がなかなか届いていないが、今の時代は情報を届けるというより、自分で取りに行かないといけない。一方、イベントの主催者は能動的に様々な媒体で情報発信することが大事。
- 48 新宿区のフェイスブックはフォロワーが少ない。フェイスブックを運営するのではなく、フェイスブックに広告を出して情報発信するとよい。

◆多文化共生のまちづくり

◆交流・イベント

【第5回 7月26日】

- 49 外国人の調査回答「外国人と日本人による協働を増やす」との回答がある。外国人は単発のイベントより、もっと一緒にできる機会が欲しいと思っている。
- 50 日本の生活に慣れるために、仕事や学校で頑張っていて心の余裕がなくて、イベントに参加できない可能性がある。
- 51 イベントで外国人が少ないと、肩身が狭く、参加するのに勇気がいる。
- 52 清掃とか防災訓練だけで終わらないで、その後に茶話会のように気軽におしゃべりする機会が増えるとよい。
- 53 地域センターで、盆踊りの団体に踊りを教えてもらったとき、外国人たちも踊っているのを見て、喜んでくれた。

【第6回 10月20日】

- 54 日本人の調査回答「参加したいと思える交流会・イベント」では「盆踊りなど地域で開催されるお祭り」が2番目に多い。日本人の回答者に高齢者が多いため、盆踊りに来てほしいということが見えてくる。神奈川県の団地で交流会をやっており、外国の踊りとともに盆踊りも踊っている。盆踊りやクリスマス会などが参加しやすくよいと思う。
- 55 新宿区の10所の地域センターでは、地域センターまつりを開催している。外国人の方に参加していただくと非常に良いと思う。
- 56 日本人と外国人の交流の機会を作り、さらに一歩進めていけたらいいと思う。
- 57 例えば、外国人の起業家など、外国人と日本人との交流イベントの場をもっと設けることで、もっと交流できると思った。

【第7回 12月22日】

- 58 大久保地域では、お祭りに外国人の子供や家族が参加して本当に楽しい、いろんな地域に広がるとよい。
- 59 お祭りや防災訓練に外国人が参加しても、その後の交流につながらない。徐々に繋がっている気がするが、すぐには難しい。あきらめないで続けていかないといけない。
- 60 ベトナム人と日本人の交流会を実施したいので、場所を提供していただくと有り難い。
- 61 新宿区に住んでいるが、地域センターのイベントに行ったことがなく、知らぬ間に終わっている。留学生がイベントを知っていても気軽に行けないと思う。ハードルを下げて最初の一步が大事。
- 62 交流する機会を色々なところで作ってあげれば良いと思う。その中で、地域センターは、最初の一步を踏み出すいいところだと思う。

◆多文化共生プラザ

【第6回 10月20日】

63 日本人の調査回答「しんじゆく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの」では、「外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動」が最も高いのに驚いている。日本人側が外国人コミュニティの存在を認識していて、接したいと思っている。

【第7回 12月22日】

64 しんじゆく多文化共生プラザについて、日本語ボランティアだけでなく一般の日本人も利用して交流を深めると、外国人の日本語の練習になる。プラザをぜひ日本人に周知してほしい。

◆文化の理解、多文化共生の意識

【第5回 7月26日】

65 文化を知ったうえで、ソーシャルワークをしたうえの相談のできる人も増えていかなければならないと思う。

66 外国人コミュニティで、日本の文化を説明するとよい。

67 区政モニターアンケートで「地域で多文化共生が進んでいる」と思う割合が7割を超えて非常に高い。地道に取り組んできた結果だと思う。

68 多文化共生という新宿区の理念は、区民に共有され、浸透している。

69 日本人が外国人を包みたくても、全ての国の文化を理解するのは重荷になる。ひとつの国だけでもいいので知ったうえで話し合うとよい。

70 もう少し丁寧に文化や社会の違いについて日本人が学ぶ機会があれば、より包容力を持って外国人を受け止められると思う。

【第6回 10月20日】

71 マンションの防災訓練や盆踊りのチラシを見ると、日本人でも分かりづらいものもあり、ましてや多言語対応の考えはないようである。自治会や町内会でも意識の醸成が必要だと感じた。

【第7回 12月22日】

72 以前は外国人の店員を見て驚いたこともあるが、今は当たり前に感じている。外国人の店員でも普通に仕事をこなしていて、言葉も理解しているので、店員が外国人であるという意識は無い。

73 イベントに参加しても、その後の交流につながらないのは、新宿区が多文化共生がある程度のレベルになったのだと思う。日本の街中で日本人同士が会っても、ただすれ違うだけである。また、海外のニューヨークでも、アジア人だからといっても関係はなく、特別扱いもない。

◆多文化共生の推進

【第5回 7月26日】

74 言語教室やイベントをやりたい外国人起業家などを支援するとよい。

75 ネットワークづくりにそろそろ移らなければならない。多文化共生連絡会が活用できると思う。

- 76 外国人コミュニティとの連携がこれから重要になる。
- 77 シンガポールではインド系や中華系など様々な国の人がいる。日本も近い将来、シンガポールのようなと思う。
- 78 諸外国で多くの外国人労働者を受け入れている国がある。何が効果的で何が失敗だったのか洗い出して、想定できるリスクに対応していくのもよい。
- 79 地域として何ができるかというのは、地域全体で考えていかなければいけないと思う。

【第6回 10月20日】

- 80 日本人と外国人をつなげていくのが、新宿区が考えなければならないことである。
- 81 新宿区の課題は、留学生が3分の1で、定着率が悪いということ。新宿区に住み続けたい人は非常に多いが、どんどん変わってしまうのが課題だと思う。住み続ければ行政が多文化共生を進めやすくなる。定住を促進するようなマインドを持つのも必要である。

【第7回 12月22日】

- 82 新宿区の外国人住民の国籍は約130もあり、多様性に富んでいることが良いところであり特徴である。新宿区で各国のイベントをやれば、ミニ万国博覧会になる。
- 83 4か国会議は、主に日本、韓国、ベトナム、ネパールの人たちが集まり、情報交換や助け合い、交流を行っている。最近是中国の学生も参加するなど、様々な国の人と交流しており広がってきている。
- 84 NPOが活動しやすいように応援するとよい。
- 85 区内のNPOが一緒に力を合わせて活動すると、財源や人員で役立つと思う。
- 86 実態調査のデータを年齢別や地域別で整理すると、課題解決までのアプローチになると思う。

◆入国管理制度に関するご意見

【第6回 10月20日】

- 87 ドイツでは留学生の学費を補助する代わりに、5年間ドイツで仕事をして国に貢献する仕組みがある。新宿区でも留学生の定住化のために、区民税を調整するなどの特典があるとよい。新宿区は便利で住みたいけれど、家賃が高くて住めない。留学生を応援して、社会人になったら貢献してもらおうとよい。
- 88 外国人が永住になるまではビザ更新のためにいろいろな手続がある。地域の交流に参加している人にはポイントを与えとか、ポイント制であればよいと思う。
- 89 外国人が望んでいるのは、日本に長く住み続けたいということ。しかし、ビザの更新ができなから帰国することになってしまう。
- 90 韓国では社会統合プログラムがあつて、それに参加したらビザの更新にプラスになる制度がある。